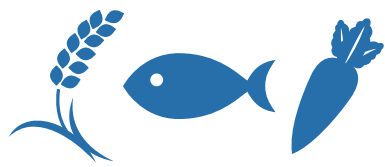




心にひびく 食と観光の振興



★もうかる農業・漁業の推進

すでに高いポテンシャルを持つ京丹後の農業・漁業を積極支援し、「誇れるブランドづくり」をさらに推進。心にひびく食と観光の振興をしっかりと進めます。

★「国際観光都市」を本格的に

観光公社の全面的なバックアップをはじめ、多言語対応ホームページ、通年型の地域拠点、「伝泊」拠点（古民家再生）整備など、観光都市化を実現します。

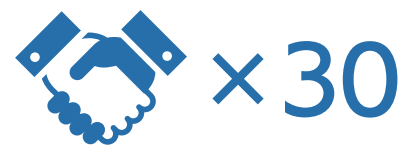
町のインフラを さらに快適に

★高速道路や港湾整備を

峰山～網野間、久美浜～豊岡間の高速道路整備を促進。山陰新幹線・リニア導入に向けての要請も果敢に挑戦します。かぶと山の景観道路、湊港など港湾整備、河川のしゅんせつ、農業基盤などインフラ整備も進めます。



地元企業を 強力に支援する



★情報経営イノベーション大学と連携

先端的な企業や技術と地元企業を結び、ウィンウィンな関係をつくる連携本部を設立。先進的な大学と連携し、30件以上の連携を実現、地元企業の活性化を図ります。

★助成金と事業承継の支援

ものづくり、観光、第一次産業などへ、全国最高級の支援策を。都市部企業との知財マッチング、各種助成、事業承継支援などを推進します。



個人事業主にも 「情報」の力を



★市内商店街の活性化

クレジット客、ポイントカードに利用可能な決済、通訳、集客機付きのタブレットを個人商店への無料配付など、革新的な事業を推進。

★先進ICTセンター設置検討

情報技術により、民間企業によるテレワーク、ワーケーションの推進と、庁舎間のコミュニケーションを円滑化を図ります。

シルク産業など ビジネスを推進



★新シルク産業創造機構

地方創生第1号計画で高い評価を得た事業を復活。丹後ちりめんの生産性向上、「新シルク」の新しい可能性を引き出し再興します。

★ビジネスモデル大賞実施

「西の松本、東の渋沢」と呼ばれた間人出身の実業家、松本重太郎翁にちなんだ事業を復活。関西経済会と連携で地域の宝を活かします。

地元企業が主役。
自然と歴史を活かそう。



中山市長時代の記者会見風景

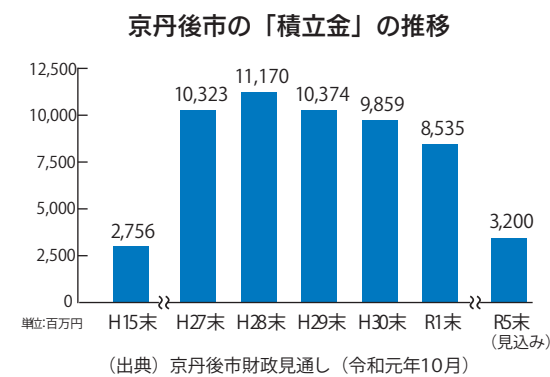
京丹後の経済を発展させるには、まず財源が必要です。以前は「夢」だった地域活性化の施策も、ふるさと納税の登場で夢では無くなりました。中山が培った「かせぐ地方創生」のノウハウを活かして税収以外で財源をつくり、地域を活性化します。

ふるさと納税 10倍プロジェクト



生まれた故郷や応援したい自治体に寄附ができるふるさと納税。寄付者への「お礼の品」には地元の産品が活用されるため、行政の財源を確保しながら地元の産業が伸びせます。京丹後へのふるさと納税を10倍を目指し、得た財源を地域の発展と安心のために使います。

今、京丹後市は 貯金が減少しています。



さらに令和5年には50億円減少の見込みと開示されています。ふるさと納税で減少に歯止めを。

※減少の原因には、合併特例の解消、台風被害対策などやむを得ない事由も含まれます。

地元産業を伸ばしながら、
財源を確保しよう。

かせぐ

ECONOMY

地元
経済

DATA ふるさと納税額

	全国	京丹後
平成27年	約1700億	約9億4千万 ただしうち6億円は大口寄付金
平成30年	約5100億	約2億7千万

ふるさと納税は、
全国では伸びています。

しかし残念ながら京丹後市では減少しています。
本プロジェクトでぜひ巻き返しを！

10倍実現 その根拠は「人脈とノウハウ」

ふるさと納税日本一を実現している宮崎県都城市 池田市長をはじめ、中山がこれまでの経歴で培った全国の人脈。ふるさと納税で「かせぐ」ノウハウはもちろん、経済発展に有効な「国の情報」をいち早く獲得できるため、10倍プロジェクトは十分可能です。



都城市 池田市長と



泉佐野市 千代松市長と